

令和3年度指定管理者評価表(令和4年度実施)

施設名	国崎クリーンセンター啓発施設
施設の設置目的	ごみ減量及びリサイクルに関する情報の発信並びに自然や環境問題について学習を通じ循環型社会の構築に寄与することを目的とする。
指定管理者	株式会社トータルメディア開発研究所
選定方法及び指定期間	選定方法:公募 指定期間:平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
評価対象期間	令和3年4月1日から令和4年3月31日まで
指定管理委託料(令和3年度)	67,220千円

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者自己評価	所管課評価	評価協議会評価			
管理 体制等 に関する 項目	基本的なサービスの提供	1 施設提供のための適正な人員配置	・事業計画書に則した人的配置がなされている。	・第3期指定管理業務計画に則し、適切な人員配置を行うと共に、適材適所により、ワークショップや各種啓発業務、地域連携の他、里山保全ボランティア育成、ごみ減量化へ向けた啓発活動に努めている。 ・経験値の高い非常勤を配置することにより、計画通りの業務を遂行すると共に、住民目線でのサービス提供、臨機応変な接遇に努めている。 ・里山保全活動に関しては、里山専従スタッフのサポートとしてゆめほたる里山クラブから2名のクラブ員に事前準備やメンバーへの連絡、備品メンテナンス、情報共有など、安全に保全活動ができる体制を継続している。 ・チームとしての業務遂行をベースとし、日報への記載、朝礼、2週間に1回の定例会議などにより、日々情報共有を行っている。	・業務計画に則した適切な人員配置を行い、個々のキャリアや能力を活かした配置となっている。 ・人員が不足しないよう、シフトを調整し、施設運営に支障がないよう努めている。	B	令和4年6月20日に指定管理者評価協議会を開催し、指定管理者及び組合に対してヒアリングを実施した。ヒアリングの主な内容は次のとおり。 【主な質疑】 Q. リスク軽減とはどういうことか。 A. 接遇研修やマナー研修を行って、来館者への対応力強化を図っている。 Q. 自己評価に記載されている苦情の詳細は。 A. ①ドッグラン利用前にチワワが逃げ出し、誤って多目的広場利用者を噛んでしまう事があり、両者で解決いただいている。この事件以後ドッグラン利用者には予約時に多目的広場の利用状況を伝え、予約をするか選択してもらっている。 ②多目的広場で昼食を取っていた子どもが、サッカーゴールのワイヤーに気付かず引っ掛かり、おでこをケガした。ワイヤーの視認性を高めるため白い紐をぶら下げることやサッカーゴールを片づける際には、ワイヤーを奥にするなどして子どもたちが近付かないよう工夫して対処している。 Q. ドローン保険の内容とは何か。またどのような事業のための保険なのか。 A. ドローン保険は、ドローン操作で損害等を加えた時に対応できる内容となっている。 事業につきましては国崎クリーンセンターの施設紹介動画のリニューアル制作に際し、空撮映像を撮影した。 またナラ枯れが発生していれば、ナラ枯れ調査の撮影にも使用している。 Q. 講座講演会参加費等が159.9%増とあるが、コロナ禍でありながら、大幅な増収の理由は。 A. 昨年度の参加者数が一番低い時と比べて増加したためである。昨年度は講座自体開催できない時もあった。 Q. 様々な研修を受講されていると思うが、より人に伝わる話し方の研修を受講したことはあるか。 A. 受講したことはない。 Q. 施設を運営するにあたり、適正な人員を配置いただいていると思うが、今後トータルメディアとしてどのような展望をもっているのか。 A. 社の方針として、現地のスタッフを積極的に採用することとしている。また本社のスタッフも担当者として配置して組織的に運営することとしている。どのような業務が今後増えていくのか、時代の流れを読みながら会社でも動いており、業務に応じたスタッフの研修等も積極的に行っていく。	
		2 指揮命令系統の確立	・組織として指揮命令系統が確立されている。	・組織体制・指揮命令系統等を定め、確実な運用を行っている。 ・本社とも月2回の定例会の実施、日常的な業務支援などの連携を実施している。 ・本社運営の他施設の指定管理業務で得たノウハウなどを共有し、運営に役立てている。	・全国で施設運営している経験を活かし、常により良い運営がなされるよう努めている。			B
		3 職員研修の実施	・事業計画書に則した職員研修が実施されている。	・海ごみ研修会を実施し、より良いガイドへ向けて学んだ。日々更新される環境問題について、情報更新し、新しい情報提供へ努めている。 ・実務研修についてはOJTにより随時実施している。 ・オンラインを含む各種研修を受講し、コロナ禍に於いても実務能力向上に努めた(年報P29参照)。 ・里山保全活動においては、スキルアップ講習会「獣害柵点検補修講習会」を実施し、理解を深め活動に活かしている。 ・廃棄物資源循環学会・環境学習施設研究会の事務局を担う関係から、全国の環境学習施設と環境学習に関わる情報を交換(オンライン)し、良い、良質な運営・啓発活動に反映している。小型家電による焼却場での火災などの啓発ポスター展示に活かした。 ・法令理解、個人情報保護、情報セキュリティ等について、本社社員を招いての研修(オンライン含む)を実施している。 ・eラーニングの研修システムにより「仕事の基礎力」について研修を行い、より良い接客に向けて努力し、リスク軽減に努めている。	・長年の研修受講成果により、基本的な研修はおおむね完了しており、会社として自己研鑽できるよう研修スケジュールを組んでいる。 ・本人の意向に即した研修を受講するよう促している。 ・海ごみ研修やオンライン研修等、時代の情勢に応じた研修を実施している。			B
		4 利用許可、案内等の対応と接遇	・利用許可、案内等が適切かつ迅速である。 ・業務や接遇について、多くの苦情を受けていない。	・施設組合の規程に則した業務を遂行しており、業務内容に関しては概ね良好である。 ・電話・WEB・FAXでの受付等の予約事務では、利用者の立場に立った適切な対応を行っている。 ・申請書類等については簿冊にて適切に記録、整理、保管している。	・利用許可や案内等を適切に対応している。 ・申請書類等を適切に簿冊管理及び整理し、保管していることを確認した。			B
		5 苦情等への対応と報告	・苦情対応が適切になされている。 ・苦情について、記録・報告されている。	・苦情等発生と同時に施設組合へ報告すると共に、業務日報へ記載している。また、苦情等の発生時には適切な対応を行っている。 ・窓口、電話、電子メールなど、利用者から広く意見を受け入れる体制を整えている。 ・ドッグラン利用者の飼い犬(チワワ)が逃げ出し、捕まえようとした多目的広場利用者の足を誤って噛む事案が発生した。当事者間で話し合いが持たれ解決した。ドッグラン会員全員に注意喚起を行うと共に、多目的広場の予約が入っている場合には、ドッグランの予約者にも施設の利用状況を伝え、会員に選択していただくようし、再発防止に努めた。 ・6/25団体見学の児童が広場で昼食後の自由時間に、誤ってサッカーゴールのワイヤーに引っかかりおでこを負傷する事故があった。その後、サッカーゴールのワイヤーに数か所白い紐をぶら下げ、視認性を高める工夫をした。さらに多目的広場のサッカー利用団体にも情報共有し、サッカーゴールを片づける際には、ワイヤーを奥に設置するようにご協力いただいている。その後は同様の事故は起きていない。	・苦情があった際には適切に対応及び全職員に情報共有できる体制が構築されている。 ・トラブルに対して自己検証でき、対策を講じる組織づくりが構築されている。			B
		6 利用者の安全確保	・安全確保対策を徹底している。 ・職員に指導徹底している。	・コロナ禍での施設運営に当たっては、消毒作業などを定型業務に組み込み、利用者の安全確保に努めた。共用部の消毒を毎朝及び使用後に実施、啓発施設入口の自動扉の開放や利用工房の窓の開放による換気の徹底、各部屋の定員を半数以下とし、座席も密にならない様に設えるなど、予防に努めている。さらに利用者にも、入館時のマスク着用と検温、来館者カード記載への協力をお願いしている。 ・安全管理マニュアルを作成し職員全員に徹底している。新型コロナウイルス感染症の対応マニュアルも作成し、情報共有し、万が一に備えている。 ・全職員が消防署の普通救命講習(AED研修)を受講している。 ・万が一に備えて、「指定管理者賠償責任保険」、「里山保全における指定管理者自賠責対象外への保険」((ア)兵庫県ボランティア保険活動等行事務用保険、(イ)森林ボランティア保険)、「ドローン保険」に加入している。	・新型コロナウイルスの感染者の発生もなく、安全な施設運営を行っている。 ・感染者が発生した際の対応マニュアルについても確認した。			B
		7 緊急体制・マニュアル・研修の対応	・緊急時に迅速に対応できるように、責任者、組織が整備されている。 ・緊急時に、組合に迅速に連絡・報告し、指示を受けるための連絡網ができています。 ・職員の対応マニュアルがあり、研修・訓練が定期的または必要に応じて実施されている。 ・実際に緊急事態が発生した際、適切に対応できた。	・緊急対応ができるよう、安全管理マニュアル及び対応体制(非常時/緊急時の役割分担)、緊急連絡網を整備し、毎年更新している。 ・常勤全職員が甲種防火管理者及び普通救命講習Ⅱクラスを修了している。基本は、施設組合の「不適合事象対応マニュアル」に則った対応を行い、定期訓練・安全講習に参加している。	・安全管理マニュアルに基づき、指導が行われていることを確認するとともに、緊急連絡網や体制が整備されていることを確認した。 ・里山での見学等の危険度が高いものについては、安全対策が講じられた上で実施されていることを確認した。			B

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価		
管理体制等に関する項目	施設の管理	8 施設の点検・保守管理	・協定等で定める範囲の施設について、適切な管理がなされている。 ・定期的に安全確認し、組合に報告されている。	・日常点検・定期点検及び安全確認を適切に実施し、日報及び火元責任者自主点検表にて報告している。 ・点検結果は施設組合に報告している。 ・施設全体の経年劣化も含め、さらなる安全管理を徹底し、安全管理につとめている。	・適切に管理されていることを確認した。	【主な質疑】 Q. 個人情報記載の書類の廃棄現場は見たことはあるか。 A. 実際に廃棄されている現場に行き、確認したことはないが廃棄証明書をいただいているので、証明書において確認している。 Q. 事務所内と本社に保存している文書があるが、分けているのか、それとも同じデータなのか。 A. 同じものをそれぞれ保存している。 【総括評価】 「管理体制」にかかる両者の説明に対して、提出資料の精査及び質疑応答などを行い確認したところ、指定管理者及び所管課評価のとおりとし、総括評価は「B」に該当すると判断する。	
		9 個人情報保護	・指定管理者が管理する個人情報について、漏洩、紛失等の事故防止のため、管理体制を整えている。 ・指定管理者が管理する個人情報について目的外利用していない。	・個人情報を含む書類は厳重に施錠保管するなど、基本協定記載の個人情報取扱特記事項に則り、適切に管理している。 ・不要となった個人情報記載書類については、民間業者の書類溶融サービスを利用して廃棄している。 ・情報セキュリティポリシーを策定している。 ・PC内の電子データについては、外部記録装置(USBメモリなど)を用いた事務所外への持ち出しを禁止している。 ・全職員のPCにセキュリティソフトをインストールしている。	・個人情報保護に係る管理体制(キャビネット施錠等)が整えられていることを確認した。 ・情報セキュリティポリシーについては、業界で厳格なトップラン社ものを準拠しており、保存場所を分割することや外部記録媒体を外へ持ち出さないルールなど、強固なセキュリティ体制を確認した。		B
		10 文書管理	・文書・帳簿類が適正に作成・管理されている。	・報告書等文書・帳票類に関して、期日どおり作成しており、事務所内及び本社にて保管・管理している。 ・事務所内の書類については、種類別、年度別に簿冊管理している。	・文書、帳簿類が適切に保管されていることを確認した。		B
		11 備品管理	・備品台帳が整備されている。	・備品台帳により、消耗品を除く備品管理をしている。 ・新規購入または廃棄に際しては随時台帳更新している。 ・経年劣化による更新等に関しては、施設組合と協議しながら進めている。	・備品台帳が適切に管理されていることを確認した。		B
		12 指定管理者が行う修繕	・指定管理者が行うべき修繕について、適正に実施されている。 ・修繕箇所について、随時、組合に報告されている。	・基本協定のとおり、管理施設・管理物品1件につき20万円未満の修繕(修理工房内の木工機材の消耗品部取替え点検整備、散水機、乗用芝刈り機、運搬車、情報機器等)について適切に修繕を行った。	・修繕について、適切に実施されていることを確認した。		B
経営状況に関する項目	経営状況	13 経理事務の実施状況	・収支にかかる帳票類が整備されており、適正な経理処理が実施されている。	・月次で適切に処理しており、帳票類の内容を一覧化している。	指定管理者の経営状況に関する評価については、協議会内で行うには時間的制約があることから、専門部会を設けて評価を行った。6月2日に評価協議会委員(税理士)・所管課・指定管理者の三者にて会計処理評価部会を実施し、指定管理者の経営状況について評価を行った。概要は次のとおり。		
		14 収支の状況	・収支決算書と収支計画書とに大きな隔たりはないか。ある場合は、その原因など。	・R3年度はコロナ禍の状況を踏まえて予算計画を作成。予算との大きな隔たりとしては、事業収入合計が予算の170%であった。人件費、物件費、事業関連費等で予算を超えた支出があったが事業活動全体の活性化に伴うものであり、結果、適正な収支バランスを得ることができた。 ・その他として、図書等購入費の予算オーバー(約5万円)は大阪府トラスト協会より蔵書寄贈があり、欠品図書を補充したためである。また、里山維持管理点検費の予算オーバー(約11万円)は、里山ボランティア活動活性化に伴うものであり許容範囲内である。	指定管理者から、各収支に係る会計処理方法とその関係書類の保管状況及び令和3年度収支金額の全体説明と個別の各項目につき、説明を受け質疑応答した。		
		15 販売上の状況	A: 350万円以上 B: 250万円以上350万円未満 C: 150万円以上250万円未満 D: 150万円未満	・コロナ禍の影響は継続してあったものの、講座運営等に工夫しながら感染防止に努めるなど、通常時と違った事業実施の状況下、事業収入合計は2,581,853円であった。引き続き、連携団体や環境学習施設を考える会などのチラシ制作なども請負い、売上増強に向け努力している。	(1) 収入と支出全体のバランスはとれており問題は無い。収入面については、講座講演会参加費等(159.9%)及び雑収入(196.7%)において計画を大幅に上回った。支出面については、人件費の後方支援費(108.6%)、里山維持管理費(115.2%)、直接事業費(113.4%)等で計画を上回った項目もあるが、おおむね計画の範囲内であった。新しく社内の取引先登録制度実施に伴い、本社の支援がより必要になり、またコロナ禍における対応やボランティア活動の活性化等で支出が増加したという説明を受け、特に問題無しと判断した。 (2) 実査については、①小口現金支払い②請求書による支払い③注文書発行(外注)による支払い④施設利用料収入⑤イベント等の収入について定められたルールに沿って処理されているかを確認した。特に見積、発注、納品、請求の各書類の整合性、そのチェックの実施状況及び金銭の出入金時のチェック(検印等)と入帳及び残高確認の有無を実査した。今回は、講座・ワークショップの収入の発生から収支状況表に計上されるまでの過程をチェックしたが、全てルールに沿って適切に処理されていた。 (3) 帳票類については、予算執行申請書、精算伝票、現金出納帳、見積書、注文請書、納品伝票、施設使用許可書、使用料収納報告書、イベント実施報告書等の保管状況を確認した。上記の各書類は適切に管理、保管されていた。 (4) 前回指摘事項としていた、自主事業個別調査の様式改善は実行された。提案としては、個別調査の作成単位を年間の「講座・ワークショップ参加報告書」の項目に合わせてもらえれば収支状況表との整合性がとれる。	評価: B	
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	16 利用者数	A: 3万5千人以上 B: 2万5千人以上3万5千人未満 C: 1万5千人以上2万5千人未満 D: 1万5千人未満	・前年度同様コロナ禍の影響により、年間の総利用者数は、15,431人であった。 ・各室利用者に関して、スポーツ利用が活発な時期とコロナ禍での自粛時期が重なった影響を受け、多目的広場の利用人数は若干減少した。一方で各種講座に関しては、コロナ禍での制限内ではあっても各講師との日程調整やテラフォーなどにより、順調に実施出来、前年度比126.8%となった。 ・施設の周知と共に利用者アップにつながる様、コロナ禍でも中止リスクの少ない展示を地域図書館と連携したり、フードドライブ事業を地域のPTAと連携するなどの工夫をしている。 ・コロナ禍での新しい生活様式に対応した新しい環境啓発の手法(ブログでの情報発信、11月北摂里山の日 オンライン配信、3月ステナアイデア オンライン講演会)を継続して取り入れている。	・昨年度と比較し、利用人数は増加している。 ・昨年度に引き続きオンライン講座を開催し、新生活様式の中でも啓発活動は滞ることなく実施されている。 ・利用者数増加に向けて、今までにない広報活動を期待する。	【主な質疑】 Q. 利用者数及びファミリーフリーマーケット参加者数の評価ですが、新型コロナウイルスの感染予防の観点から外出自粛が求められている中で、コロナ禍前の水準で評価をするのは気の毒ではないか。 A. 評価は「C」評価とするが、後述する総括評価及び総合評価において、別記し補足する。(委員長)	
		17 ファミリーフリーマーケット参加者数(4回合計) ※新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年度は2回合計の参加者数で評価しています。	A: 6000人以上(3000人以上) B: 4000人以上6000人未満(2000人以上3000人未満) C: 2000人以上4000人未満(1000人以上2000人未満) D: 2000人未満(1000人未満) ※年4回合計を2回()内は置き換えた数値としています。	・12月と3月に屋外で2回実施し、合わせて1,532名の利用があった。コロナ禍の影響により、6月、9月のファミリーフリーマーケット開催は見送った。 ・前年度同様コロナ対策を徹底し、安全に実施することができた。 ・前年度の利用者からのリクエストを参考に、開場前に並ぶ場合は全員並んでいただく様に誘導したり、広場の空きスペースでモデル体験や里山保全ボランティアによるハチの紙芝居、地産野菜の販売コーナーを設けるなど、楽しんでもらうプログラムを増やし、利用者サービスに努めている。 ・12月フリマの出店者からのアンケート回収率が低かったため、3月フリマではスタッフが各ブースに声掛けしながら回った事により、全店舗から回収することができた。利用者の声に耳を傾ける努力をしている。	・利用者満足度を上げる取り組みとして、利用者の意見に耳を傾け、実施方法の調査研究を継続している。 ・コロナ禍で中止になった回数分については、評価基準の置き換えを行い、適切に評価した。		C
		18 利用者満足度・スタッフの対応	A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	・スタッフの対応についてのアンケート(1809名回答)において、「とてもよい」「よい」を合わせて97%の満足度となった。 ・環境科学技術塾が年間9回連続で実施された中で、1名の方が、特にコメントはなく、あまり良くないにチェックが入っていた。翌月にやめられた。 ・コロナ禍でも対策を施して窓を数か所開放して、室内コンサートを実施した。窓際の席の方は寒かったと記載、後方の席の方は座席配置を考えてほしいとの記載があった。コンサート参加者には空調の関係で調整しやすい服装でご来場いただくようにご案内しているので、継続していきたい。	・アンケート回収率は約5割(1809枚/3681枚)であった。引き続きアンケート回収率の向上を図りたい。 ・要望があったものについては、適切に対応している。		A
		19 利用者満足度・「施設見学や展示解説」、もしくは「講師やプログラム」の内容	A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	・内容についてのアンケートにおいて、「とてもよい」「よい」を合わせて98%の満足度となった。 ・利用者からのリクエストに応じて講座化した「日傘作り」「帯でリメイクリユック」が好評であった。アンケートでも満足度の高い回答をいただいた。リメイクのスキルが高い参加者達の少し苦手なミシン使用に関して、サポートスタッフを配置し、講師と参加者に寄り添った講座としたことが満足度アップにつながっている。 ・講座の中で得られた特記事項等の利用者情報は、朝礼や全体会議およびスタッフミーティングリスト(ML)で情報共有し、職員一同でより良い施設運営に向けた改善や対策を実施している。	・利用者からのニーズに応えた講座を実施し、満足度を向上させる努力が見える。今後とも、利用者の要望や時代の流れに沿った講座の実施を期待する。		A

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価		
運営事業等に関する項目 事業計画に基づく事業実施状況	20	施設見学サポート業務	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望内容に応じた柔軟な対応を心掛け、環境問題を利用者の「自分ごと」に意識できるような見学ガイドを実践している。 ・施設紹介動画だけでなく、子どもの年齢層に合わせて、ガラスびん3R促進協議会提供のDVD鑑賞、SDGsの解説等の工夫を施している。 ・利用者に伝わりやすいガイドを目指して、日々情報の共有・更新をしており、職員全員が見学サポートを行うに必要な基本知識を有している。 ・新しい展示物「里山から考える海ごみ」により、プラごみ等の課題を示し、一人ひとりの心がけによって、ごみやエネルギーの削減につながることを視覚からも伝えやすい様に工夫している。 ・各自が実施できそうな簡単なエコアクション(食品ロス、マイボトル、生ごみの水切り、雑紙分別、リターナブルびん、小型不燃ごみの扱い等)の紹介も行っている。 ・職員が共有している「Q&Aノート」に、適宜お客様とのやりとりを記載し、朝礼での報告などにおいてタイムリーに情報共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題を自分の問題として考えてもらえるよう、工夫をして分かりやすく解説する取組がされている。 ・来場者等へのわかりやすい説明や支援等を行うため、職員間での情報共有を行い、より良いサービスの提供に繋がっている。 	B	【主な質疑】 Q. 木工教室などの講座は人気とあるが、受講者はリピーターが多いのか。 A. 教室については「森の泉」で一般公募している教室なので、初めての方や、リピーターの方もいる。教室の内容によって変わる。 Q. 障がい者の方が来館された時の対応はどのようにしているのか。 A. 障がいをお持ちの方は基本サポートされる方と一緒に来られるので、その方にルートの説明をさせていただいている。また、万が一緊急時のために車いすの方の数をスタッフ間で共有している。 Q. 障がい者の方が一人で来られたことはないか。 A. 今まで来られたことはないが、車いすの操作方法や実際に車いすに乗って、施設を巡回するなど、研修を実施しスタッフ間で情報共有している。	
	21	団体対応業務	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の小学校団体の利用はほぼ例年通りであった。コロナの制限の状況により、各学校と個別に打ち合わせを行い、地球温暖化学習や廃材ワークショップなど、感染症リスクを最低限におさえた環境学習提案を行い、先生方の要望もいただき対応している。(実施23校、1624名) ・学校、地域団体等からの予約受付及び見学サポートを適切に行う他、団体からの各種要望(体験、昼食場所、工作、滞在時間等)について柔軟な対応に努めている。 ・施設内で昼食を希望する学校や団体には、感染症予防のため、多目的広場や屋上庭園など屋外での飲食をおすすめし、併せて天然芝をはじめ本施設の魅力発信にも努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・構成市町の見学は、コロナ禍も落ち着いたこともあり23校の見学があった。解説内容についても各学校の要望に応じて工夫された内容となっている。 ・積極的に多目的広場や屋上庭園の利用促進にも努めている。 	B		
	22	環境情報センター管理業務	<ul style="list-style-type: none"> ・環境読書感想文コンクールを2018年度より継続実施している。4回目となる令和3年度は、初めて地域の方対象の「ゆめほたる賞」を新設し、地域の方の参加を促した。コロナ禍の関係もあり、今までに応募いただいた学校団体からの継続応募はいただけなかったが、地域からは11件の応募があった。 ・構成市町における地域組織や地域企業、一庫公園、一庫ダム、知明湖キャンプ場、学校教育機関との連携をはじめ、兵庫県立大学、兵庫県立人と自然の博物館など教育研究機関とも連携し、啓発事業にかかる連携窓口や調整役として機能している。 ・住友ゴム工業(株)の植樹維持活動(センター内植樹地)について継続協働し、今後の維持活動についても協議している。 ・廃棄物資源循環学会・環境学習施設研究部会の事務局として、全国施設の運営改善へ向けた情報交流や研修活動の基幹的な役割を担っている。R3年度においては、オンライン研修会や現地に出向いての視察研修会を実施することができ、リチウムイオン電池による火災の事例や環境学習施設運営の情報交換なども行い、運営に役立っている。 ・環境学習施設の運営改善を目的とした環境情報センターの研究事業として、SDGs先進大学である京都大学(大学院地球環境学堂・浅利美鈴研究室)と共催事業「環境まんが国際フォーラム」を3月にオンラインで実施した。講演やディスカッションなどにより、難しい環境問題をマンガによって紐解き、分かりやすく伝えることの大切さと継続して啓発することの大切さなどを共有した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境読書感想文コンクールについては、コロナ禍ということもあり、昨年度と比較して大幅な応募減少となった。(全体18件)情勢の変化を研究し、事業の見直し等を含めて検討していただきたい。 ・数多くの事業所や地域組織等と連携して繋がっていることを確認した。今後とも近隣の団体や関係組織と連携して事業を行う事が多くなると考えるので、連携事業は継続して行っていただき、これまでにない事業アイデアを期待する。 	B		
	23	講演会、講習会、研究会等開催業務	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書に掲げる各種事業の実施状況及び実施により得られた啓発効果 ・各種事業の利用促進にかかる改善点、工夫点 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策について地域の問題として捉えられるきっかけの場として昨年度よりセミナーを継続している「災害対策セミナー」を実施。参加者の悩み相談と講師の回答などにより、参加者全員で問題と解決方法について共有することが出来た。さらにセミナー終了後に当該地へ全員で行き、講師からのアドバイスを共有した。地域に寄り添う地域を守る活動の一つとして今後も継続していきたい。 ・11月6日に近大 田中晃代教授(総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 総合文化研究科)を招いてNPO北摂里山文化保存会と共催での講演会「さとひと・まちひとが出会うとき」とディスカッションを実施。里人や森林ボランティアによって、今まで大切に守られてきた里山里山の自然景観・文化を、「さとひと」と「まちひと」がともに協力しあって次世代に継承していくきっかけとした。さらに学生達も参加し地域の歴史を知り地域の方と交流をはかることにより、地域貢献の意識の醸成が期待される。2019年度にも古写真を見ながら地域を語る会を田中教授をお迎えし、実施している。今回も古写真つながりでの継続事業と位置付けている。 ・11月7日には海ごみ啓発として講演会を実施。「人と里、そして海」と自然の博物館館長 中瀬 勲氏、「人と里海、そしてプラスチック」京大 浅利美鈴准教授、「海ごみの最新情報と展示紹介」京大 浅利研究室 益田 明奈氏によるお話とパネルディスカッションも繰り広げられた。先生方を中心に、里山関係者(NPO法人北摂里山文化保存会、里山デザイン)と留学生(京都大学大学院地球環境学堂)のみなさんをお迎えし、里山や廃棄物に関する課題について語り合い、一人ひとりのライフスタイルの見直しと本当に必要なプラスチック製品について考えるきっかけとした。オンライン配信も行うことで、新設した「里山から考える海洋ごみ」の展示についても広く周知することができた。 ・9月のフリマがコロナの関係で中止となったため、代替事業として3月にオンラインでの「環境まんが国際フォーラム」を実施。言葉を超えて世界の誰にでもアピール理解できる「マンガ」や「イラスト」により環境問題をテーマに国際的に環境問題への意識を喚起した。講師は、森の泉4面でもお馴染みの環境まんが家 本田 亮氏、北京第二外国語大学教授 陶 治氏、京都大学名誉教授 高月 結氏。この度のオンライン開催を遠方の方にも広く知ってもらえる機会として、参加者が楽しみながら聴講できるように工夫した。カラフルでコミカルなマンガやイラストで環境問題の解説をすることにより、飽きずに変化に富んだ内容となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域共通の問題である「災害対策」に関する講演会を開催し、地域の方たちと関わる事業を継続している。 ・環境問題を誰でもわかりやすいマンガやイラストにすることで、難しい問題をわかりやすく啓発することができている。 	B	
	24	リサイクル工房活用業務		<ul style="list-style-type: none"> ・修理工房では、木工教室、レザーメイク講座、制作工房ではエコクッキング、軽作業室では和布リメイク講座などのエコ講座(ワークショップ等)を実施している。 ・広く地域の方にご利用いただき、新たに2組の地域講師が増えた。本人のご希望を反映しつつ、ゆめほたるらしさも取り入れていただきながら、講座と一緒に組み立て、年度末に布ぞうり編み制作、ミソロウラップ作りを開催した。 ・木工教室は利用者のニーズに柔軟に対応でき人気講座となっている。 ・クラフトバンド講座は、人気講座となり、初級のスキルを身に着けた方々はクラブ活動として講座室を利用いただいている。 ・令和元年に誕生した環境科学技術クラブが主催する連続講座「環境科学技術塾」は、地域が主役の自立的な講座であり、最後の成果発表会は保護者も多数参加し、子どもたちの見事なプログラミング作品の発表に拍手や歓声など大変盛り上がった。ゆめほたるは会場設営やアンケートなど後方支援に徹している。 ・コロナの影響により館内での調理関係の活動制限があったため、そばクラブやクッキングクラブの制作工房での活動は昨年同様減少となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木工教室、エコクッキング、和布リメイク、里山フラワーアレンジメントなど「エコ」「リサイクル」をテーマとした講座は、大変人気があり、安定した開催となっている。 ・各種講座については、時代のニーズに合わせ新しい講座の開設も期待する。 ・地域講師も誕生し、今後も地域の人たちとの関りを深めていただきたい。 	B	
	25	多目的広場活用及びフリマ開催業務		<ul style="list-style-type: none"> ・学校団体やスポーツ団体利用に向けて、良好な芝生管理に努めた。 ・好評の天体観望会はコロナ禍のため日程を秋に延長し、ジャズと星空のタペイベント名も変えて実施した。コロナの状況により冬の観望会は中止を余儀なくされたが、多目的広場利用向上に努めている。 ・12月と3月に多目的広場を利用したフリーマーケットを実施した。検温や誘導などコロナ対策のため人員を増やし対策を万全にし、安全に実施することができた。 ・週末利用の少年スポーツ団体やサイクリングイベントの大会実施の際には乗り合わせでの来場やごみ持ち帰りなども含め、施設を安全に、環境に配慮してご利用いただくよう協力していただいている。 ・6月9月に設置趣旨に沿った多目的広場の活用として屋外フリーマーケットを準備していたが、コロナ禍の影響で中止を余儀なくされた。 ・平日利用の学校団体などへ、昼食会場や自由遊びなどで天然芝の多目的広場利用を誘導するなど、施設の魅力普及に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的広場への誘導を行い、魅力普及に努めている。今後は普及を行いつつ、今までにない事業で利用者数の増加に努めていただきたい。 ・フリーマーケットはコロナ対策を万全に行い、利用者の意見に耳を傾けた開催ができている。 	B	
26	屋外観察会開催業務		<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業との協働事業「天体観望会」はコロナ禍により秋にジャズイベント同日開催とした。ダジックアースに投影される月や惑星を見ながら天体や宇宙についての解説が面白く、ビジュアル的にも新鮮さがあり、様々な制約の中ではあったが、プログラムの工夫により、安全に実施することができた。 ・冬に予定していた猪名川天文台運営委員会との連携事業はコロナ禍により参加者辞退が相次ぎ、中止を余儀なくされた。 ・コロナ禍で6月ゲンジボタル、ヒメボタル観察会は中止となったが、ブログ上で「く」にさきの森より」というタイトルで、屋上緑化や里山の植物や昆虫等について通年で施設の魅力や情報発信を継続している。 ・前年度に引き続きエドヒガン林散策ガイドをゆめほたる里山クラブが実施し、国崎のエドヒガンの魅力発信に努めた。 ・コロナ禍で制限のある中ではあるが、当施設の恵まれた自然環境を十分に活用すべく、創意工夫をこらした事業展開に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、人を集めるイベントの中止が相次いでいる。その中でもコロナ対策の工夫を施し、実施したイベントを通じて、施設や里山の魅力を発信できている。 ・毎年同じものではなく、場所を変えるなど創意工夫に努めていることを確認した。 	B		

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価	
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	27 貸館業務	<ul style="list-style-type: none"> ・クラフトバンドクラブの活動場所として講座室を毎月利用することになり、管理棟の稼働率向上に努めた。 ・各種クラブ員や利用者が使いやすいように、コロナ対策、整理整頓、コミュニケーションに努め、リピートに繋げている。 ・土日祝休日の視聴覚室・講座室利用時には、事前説明や掲示物等により、セキュリティエリアへの侵入防止へのご協力依頼等、施設全体が安全にスムーズに管理できるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に利用していただくことを促進しており、稼働率増加に努めている。 ・引き続き、セキュリティエリア侵入防止への配慮をお願いする。 	<p>【主な質疑】</p> <p>Q. 昨年度と比較して貸室の利用率が全体の利用者数の増加率と比較して高いが、要因は何か。 A. 小学校の施設見学がコロナ禍前の水準に戻ってきたことが要因と考えている。</p> <p>Q. 森の泉について、新年度からリニューアルとしているが、どのような内容か。 A. 長年変更していなかった4面のアンケート質問内容を92号(R4.5.25号)より変更している。内容としては、今読者が求めている記事の内容の情報収集を基にしたもので、より読者のニーズに沿った広報紙とするため変更したものである。</p> <p>【総括評価】 「運営事業」にかかる両者の説明に対して、提出資料の精査及び質疑応答等を行った。「利用者数」及び「ファミリーフリーマーケット参加者数」の評価については「C」評価としたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けながら一定の成果は上げられているものと評価し、総括評価は「B」に該当すると判断する。</p>	
		28 ボランティア運営業務	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画書に掲げる各種事業の実施状況及び実施により得られた啓発効果 ・各種事業の利用促進にかかる改善点、工夫点 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期～3期の里山保全技術者養成講座修了生がゆめほたる里山クラブ員として敷地内の里山保全活動を行っている。 ・森林整備に加え除間伐材を活用してサインやベンチの制作設置を行っている。さらに、里山林を利用した小学校の体験学習の指導や、催事の運営も活発になって来ている。クラブ員の意見を取り入れながら、活動内容を構成することにより、主体的な活動につながっている。 ・林床植生の回復と森林土壌の保全を目的としたミツマタの試験植栽地に続き、同じくシカの嗜好植物である“ガンビ”の試験植栽の計画に向けて屋上庭園で苗を育苗している。 ・ボランティアのゆめほたるクラブには、現在110名が登録されている(令和4年3月31日時点のボランティア保険加入数)。 ・環境活動に意欲的な方々に対して、集いの場・交流の場を提供している。 ・環境科学技術クラブ、クラフトバンドクラブ、ガラスRグループ等の活動が活発化している。つまみ細工やハンドメイドクラブなど新たな視点で協力いただける講師が増えている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめほたるクラブの登録者数は、毎年安定的に推移している。 ・ボランティアの方々は精力的に活動しており、その活動が活発に行われるよう、支援・助言していることを確認した。
		29 「森の泉」編集業務		<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の編集作業を行う「森の泉」は、1市3町の住民の皆様へ情報提供を行う重要なツールである。読者の視点に立ち、読みやすい・見やすい・わかりやすい紙面構成を心掛け、好評を得ている。R3年度は年間711通のアンケートハガキが届いた。前年度は765通、前々年度は722通。 ・森の泉20号(H22)から丸12年間の累計回答数が約8500件に達した。集計結果がほぼ同じ割合になる設問を、さらなる住民からの意見収集に活かすべく、新年度からのリニューアルに向けた準備をすすめた。 ・各種講座案内と共に、施設見学、各催事、新規(海洋プラスチックごみ)展示、ファミリーフリーマーケット、リユース家具、ペーパーリユース、環境系コンテスト・フォーラムなどをとりあげ、ゆめほたるのアピールと利用促進に貢献した。 ・1月号では、利用者30万人達成セレモニーを紹介。記念品としてモルックを贈呈した事を機に、多目的広場の貸出用備品にモルック3セット導入し、貸室情報に加えるPRを行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい紙面構成やレイアウトを心掛けることで、「森の泉」の認知度上昇に貢献している。 ・読者アンケートの質問事項を広報紙なりに反映できる内容に変え、より読者により沿った読みやすい紙面となるよう、努めていきたい。
		30 施設利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・各貸室、多目的広場の利用状況(前年度対比) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度同様、コロナ禍の影響に合わせて段階的に制限を設けながら、対策を施し、安心して利用していただける様に努めた。 ・年間の見学・部屋利用・出前(展示)を合わせた総利用者数は、15,431人となり、前年度比は113.9%。少しずつだが、通常運営できる期間が増えてきている。 ・各室利用件数は前年度比106.1%、各室利用人数が前年度比102.7%であった。コロナ禍前の状況に戻つつあるものの、エコクッキングクラブやそばクラブの活動の減少をガラスクラブの講座実施により、回数人数共に前年度を上回った。 ・修理工房の利用件数は前年比108.8%となり、レザーリメイク講座や木工教室や里山クラブ木工班など人気講座により動きが活発であった。 ・多目的広場の利用に関して、利用件数は前年比92.5%、利用人数は前年比105.6%であった。スポーツ利用の活発な時期とコロナによる自粛期間が重なった影響により、各団体とも半日での利用や試合を練習に切り替えるなどの対策を行っていた。日ごろから天然芝のメンテナンスを丁寧に行い、芝生の状況と利用者の希望、及び駐車場など、様々な調整をしながら貸出業務を行い、良好に業務遂行ができています。 ・小学校団体などへ昼食場所としての使用を誘導するなど、多目的な施設の魅力を広める努力を継続している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者数の前年度比は概ね100%を超えており、R2コロナ禍と比較し、利用者が戻ってきていることを確認した。 ・多目的な施設とあるように、アイデア次第で多様な事業ができるように思う。今後、バラエティに富んだ事業提案を期待する。
		31 地域活性化、地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化、地域貢献のためのイベント等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs(持続可能な開発目標)を掲げ、地域と連携した活動(フードドライブ)も継続している。地域の高校PTAとも連携しフードドライブ事業を行った。 ・11月に「古写真で語る北摂里山」と題し、近畿大学総合社会学部 田中 晃代教授に基調講演会「さとびと・まちびとが会おうとき」や地域のみなさんと古写真を見ながら思い出話などを展開し、地域の方と若い世代の方々のコミュニケーションの場を設け、里山を見直し、次世代に繋いでいくきっかけづくりができた。地域の方々が歩いて参加できる様に、場所を長谷屋旅館に変更した。 ・前年度同様、「珈琲の楽しみ方教室」で、コロナの状況で館内実施ができなかったため、能勢町のけやき資料館と連携し、屋外実施とした(6月9日)。 ・地域企業と連携実施している「バードウォッチング」では、ゆめほたる里山クラブも協力し、国崎の里山林内での観察会とした。同じ講座でも少し目新しさを追加するなど、参加者楽しんでもらえる様に工夫している。 ・イオンモール猪名川に風呂敷体験とクラフトバンドワークショップで出店し、施設周知と啓発活動を展開した。 ・映像を学ぶ講座では、知明湖キャンプ場での撮影会を行い、キャンプ場の紹介動画を参加者の成果物とし、地域の魅力をYouTubeで発信した。 ・前年度に続き、地域の課題の一つである獣害対策について、7月にセミナーを実施した。地域の困りごとの現状を探ると共に、専門家からのアドバイスをもらい、その後実際に現場の状況改善に至るなど、地域に貢献した。 ・川西モルックの会と連携し多目的広場の催事で体験会を実施している。老若男女だれでも楽しめるスポーツ“モルック”は貸出備品として、多目的広場の利用促進に繋げる工夫をしている。 ・ひょうご観光ツーリズムからの提案を受け、日本一の里山“黒川”の紹介やお茶席体験、菊炭、お箸づくり体験などのモニターツアーを2回受け入れ、地域の魅力発信に努めた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業や団体と連携し、SDGs(持続可能な開発目標)に向けた事業に加えて、地域の魅力発信にも取り組んでいる。
		32 里山林維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・里山林整備構想計画に基づく事業協力 ・里山保全技術者の養成・活用 ・里山林維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学術経験者や森林整備専門家などから、国崎の里山林保全についてのアドバイスを得ながら維持管理を行っている。 ・年間計画に則り、ゆめほたる里山クラブも交えて、里山林維持管理を行った。ゆめほたる里山クラブ員が主体となって、除間伐材の利活用方法について考え、実践した。R3年度は、林内のサイン類とベンチの制作と設置を行った。看板の文言についてはNPO法人北摂里山文化保存会にご協力いただくなど、地域の団体とのつながりも継続している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・里山保全ボランティアが定期的に活動を展開している。 ・里山保全ボランティアも含め、里山林の維持管理を計画に従い、適切に実施できている。 ・今後は里山保全だけでなく、里山を活かした環境啓発及び里山学習拠点となるような事業を期待する。
33 市町施策との連携、協働、支援	<ul style="list-style-type: none"> ・市町とごみ減量や分別の推進にかかる協議の実施 ・市町へのアドバイス、技術的支援 ・市町の要請による研修会、出前講座等の実施回数 	<ul style="list-style-type: none"> ・国崎クリーンセンター内のごみ処理工程等を見学いただき、日ごろ迷われるごみの分別方法や生ごみ減量の工夫など、身近な人に伝えていただけるよう分かりやすいガイドに努めた。 ・豊能町立図書館に於いて、9月から10月にかけて、地域講師の作品展を開催し、施設の周知と3Rの啓発に努めた。多くの図書館利用者に見ていただき、ペーパーリユース品の利用につながった。 ・川西市の分別内容が変わることを、ブログや講座参加者にお知らせするなどごみに関する地域ニュースを広める努力をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊能町立図書館との連携施策を引き続き実施していることを確認した。 ・市町連携の一環として、市町で開催しているイベントに参加している。コロナの影響もあり、市町施策に関わっていく事ができなかったため、今後は積極的に関わっていく事を期待したい。 			

項目	評価の観点	左の説明	指定管理者 自己評価	所管課評価	評価協議会評価	
運営事業等に関する項目	事業計画に基づく事業実施状況	34 その他改善努力	<ul style="list-style-type: none"> ・学校団体の見学ガイドの際には、一方的な解説ではなく、クイズを混ぜたり、児童に発言してもらったり、できるだけ記憶に残るよう各々工夫し、さらにスタッフ間で情報共有している。 ・SDGs大型パネルの活用と食品ロス問題の解説を継続して、分かりやすいガイドに努めている。 ・ガイド後のアンケートのコメント欄には、分かりやすかった、楽しかった、勉強になった等のコメントの他、具体的に”ごみ出しを手伝う”や”給食を残さない”などを宣言してくださる児童もおり、ガイド後のアンケートはスタッフの糧となっている。 ・コロナ禍でのペット人気の影響もあり、わんだふるクラブの登録数が年々増加し、利用者が増えている。クラブ役員中心にゆめほたるスタッフと協力し、施設利用説明会や交流会などで注意事項だけでなく今までの事故事例の共有もを行い、施設を安全に利用していただけるよう取り組んでいる。会員の皆様もそれに応えるように施設をととも大事に使用していただき、草むしり協力やネットの穴あき改善点の提案など積極的に関わってくださっている。 ・地域の福祉施設と連携で啓発ロビーに季節ごとの手作り作品の展示コーナーを設けている。子どもたちが多く訪れる夏休みなどには、折り紙作品のプレゼントなどもあり、連携による利用者サービスに努めている。 ・R3年度は前年度同様ガラスびん3R促進協議会と連携し、パンフレット配布とガラスのリユース、リサイクルについて紙芝居形式での解説を行い、意識向上と行動変容につながるよう努めた。 ・物品庫や書庫、消耗品や備品等を整理整頓することで業務効率化に努め、裏紙の利活用によりごみ減量に努め、ゆめほたるスタッフが指導するワークショップやウィークエンドワークショップの材料には廃材や里山保全活動で出た除間伐材を中心に活用するなど、常日頃から3R活動に努めている。 ・消耗品は最後まで使い切り、電気製品などは修繕(リペア)して再利用を心掛け、経費の節減に努めている。 ・夏チラシの裏面をSDGsぬり絵とし、ぬり絵作品を提出いただいた子どもたちに景品をプレゼント、さらに見学通路に作品展示するなど、SDGsの周知に努めた。多くのカラフルな作品が展示され、作品を提出したお子さんのご家族も見学に来られるなど、施設見学者向上に貢献した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設見学の児童を飽きさせない工夫をして、記憶に残る見学ガイドを実践している。 ・わんだふるクラブの会員数が増加する中でも、施設が適切に使用されているだけでなく、会員が施設を大切に使用していただけるよう導いている。 ・来場者に対してごみ減量を訴えるだけでなく、日頃より職員が3R活動を意識して取り組んでおり、経費削減に努めている。 ・SDGsぬり絵については、とてもよい取り組みだと考える。子どもの作品は親だけでなく祖父母も見に来ることが考えられ、来場者の増加に繋がる。また併せて施設見学をしていただきごみ減量化について触れてもらえることもできし、口コミで広まることも考えられる。 ・ぬり絵事業だけでなく、この施設に自然と人が集まって啓発できるような取り組みを期待する。 	A	評価：B

総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本指定管理業務の趣旨及び目的は、単なる施設管理業務だけではなく、ごみ減量やリサイクル等の継続的な啓発活動を通して、循環型社会の構築に寄与することにある。 ・指定管理者の令和3年度業務について、協定書及び事業計画に基づき、適正に業務が実施されているか、要求水準以上の啓発効果が上げられているか、協議会及び専門部会の計2回の協議の場をもって確認を行った。 ・管理体制面については、「適正な人員配置」や「職員研修の実施」、「個人情報保護」など12項目にわたる評価観点に基づき、提出資料の精査及び質疑応答を通じて確認を行ったところ、指定管理者の自己評価及び所管課評価のとおりであり、適正に業務が実施されていると判断した。 ・経営状況3項目については、専門部会を通じて提出資料の精査及び質疑応答による確認を行い、収入予算の見込みが甘い部分もあるが、全体的には収支の内容とその処理方法が適正に実施されていると判断した。 ・運営事業19項目については、各啓発事業実施状況やその成果について、指定管理者による説明及び質疑応答を通じて確認を行ったところ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業を中止せざるを得ない状況にありながら、オンライン講座や代替事業を企画立案することで、感染対策と事業運営を両立できていると判断した。 ・利用者数やファミリーフリーマーケットの参加者数の個別評価は評価指標に従い「C」という評価をしたが、新型コロナウイルスの流行が終息しない中で、評価には表せないが感染対策を講じながら懸命に企業努力されていることは、認められた。
評価：B	<p>【今後の啓発事業の展開にかかる提言】</p> <p>平成21年の開館以降、ごみの減量や分別、リサイクル等を推進する循環型社会形成に根差したイベントや講座、ワークショップの開催を通じて、啓発施設への利用者数増加に様々な工夫をされ、限られた予算や人材の中で時代に沿った事業を展開され、非常に努力をされていると感じる。令和3年度についても新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた年となり、予定していた事業を中止せざるを得なくなったものもあるが、コロナ禍であったからこそできた事業(オンライン講座等)もあり、新たな発見もあったと考える。コロナ禍で得られた様々な経験を将来に活かしていただきたい。</p>

附帯意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業等のアンケートにおいて、利用者にとって高い評価を得ているが、回収率が約50%である。決して低い回収率ではないが、さらなるアンケート回収率の向上策を期待する。 また、アンケートだけではなく来館者の生の声を聞き、事業等に反映できるようにしてもらいたい。 ・全国展開している強みを活かして、構成市町や関係機関に対して情報提供や事業の提案を行うなど、関係をより密にしていきたい。 ・地域の方の理解があってこそ、この施設が成り立っているため、今後とも地域の方や地域企業との連携を継続していただきたい。
------	---

附帯意見の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・現在アンケートを配布している自主事業の参加者に加え、貸室利用団体や一般見学の方々にもアンケートを配付し、利用者の意見獲得の範囲を広げます。 また、来館者にお声がけをし、お客様の意見を直接ヒアリングいたします。こうした声は施設組合との定例会の場で情報共有いたします。並行して、アンケートにお答えいただいた方への謝礼品の渡し方や謝礼品の内容について工夫をし、回収率の更なる向上に努めます。 ・指定管理者は全国各地の施設の管理運営を行っており、当該地域の文化を掘り起こして適切に伝え、地域の新たな文化価値を創造してきました。これらのノウハウを活用するため、運営実績館との情報共有、人材交流を進めます。 また、全国の類似施設の動きや事業などの情報を基に、構成市町や関係機関との協議の場で情報の共有に努めます。 ・令和4年度中に行うホームページ改修を機に、ホームページやブログ、SNSの活用をさらに強化し、地域への情報発信をより充実させます。ゆめほたるではこれまでに、地域の団体や企業、大学、文化施設などとの多様な連携実績があります。 こうした協力先についてのリスト化を進め、連携の継続・強化に努めます。 また、ごみ減量や環境問題をテーマにしたパネル類の出張展示を公共施設や商業施設で行い、地域の方々に見ていただく機会を増やします。地域企業との連携では、川西市商工会に加え猪名川町商工会、豊能町商工会、能勢町商工会にも定期的に広報資料を提供する体制をとります。
---------	--

＜評価指標＞

＜個別項目評価＞

- A：協定書、事業計画書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績(効果)があり、優れた管理・運営が行われている。
- B：概ね協定書、事業計画書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績(効果)があり、適切な管理・運営が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見受けられたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

＜総括評価＞

(管理体制評価)(経営状況評価)(運営事業評価)

- A：個別項目評価が全てB以上であり、かつAが過半数である。
- B：個別項目評価の8割以上がB以上である。
- C：個別項目評価に複数のCが含まれる。
- D：個別項目評価にDが1つでも含まれる。

＜総合評価＞

- A：総括評価にCが含まれず、かつAが2つ以上ある。
- B：総括評価が全てB以上である。
- C：総括評価にCが1つでも含まれる。
- D：総括評価にDが1つでも含まれる。